



特 別
A12
5122
4



義隆記卷中又目錄

判費台野山り八路ふ事

志門より聖山小控らるる事

義隆より野山を物ら路ふ事

たくのふりれりさしまらるる事

うこのふり乃やまのりせこの事

うの法師よりせん城おのりの事

義隆記卷之八

判友若野山より入給ふ事

初小春をささげんともよみしれそのまう冬あもれいん
 や幸一乃くれなれもたふ乃小海もはくら升て一方を
 らぬ山なれとももくまんあひぬ名ありとすてくし
 てあひの成をまてをさるんうまうるさ海くれなん
 志よとるそ一三乃もさ海之四れたうあまのたんと
 りふとくまてまけつるま給ひたりむ所一まうりり
 をしきと乃成ともパーぬうくなく見すらとのをめん
 さうまわり四圍乃ともも一船入り十余人とらなりなり
 給ひくあくろやとくもなるを一おは志んさんまて
 是うく一のふくまろを給く流やのしそあり



ふゆりとはゆをへまのけしりやーまききりりーのまよ
りくまがーしせいーらざれてふゆけりさん毒ーを口
そーりるへしーいりくもららよひの押りつらやーまよの
おらてまよもたさうんとやーあれもそれもさすの
あまつたーいりそあく目かえあもせうとーくやの
こーくまんきしたまひくらーま毒めそおゆーめ
けりーりりしぬありをまてーやを毒けつからとや
をたうひぬ又り建らりけのまよのゆーあまをたこーり
りくあありをてりくくとおりくーあーらまこくこま
ぬひけくならしおびせひゆひけりもくもんむゆー
さめーてゆがさしれりかを人かむゆーさうーつ
まぬるりもなゆゆもまらりぬららわらとてりゆ

てあままて女頭くーけりくうまなうーまひのあ
毒毒これよりあゆかをまよこをりぬさくわを思ふ
りくあさつふびさーくうひーあまらまゆりらあま
くゆこーさゆさくうひゆよゆんげりくとうくーく
たくゆひつ糺とをれそれけけけまらうきてーくゆん
くわうりーゆゆーのーけらて回乃くれゆもぬされお
とくくゆつうきくんとやせしなゆーおりぬさん
やつひく又だりひうぬゆーやいもん毒もさあひゆ
乃んゆーいりおろやゆゆもつれゆゆちりー及びす
まゆらとまやうぬぬさうやとゆがさくれゆゆさ
らひ二人ゆうーま三人ゆとまやーゆかゆーゆゆれ
まひとくよあーつゆよゆれちとくれゆらとーくゆも

りしすれ道乃ほとくしくつこもてとやこをり包
まそとのしくきそれちとつりつりつこもあつらふ
さつとくしと物不せりふ物つてちののそめして物不
せりつとあつらつりつとまもこやこをり包をよまあ
まあままてひまをうくたたりけつもひり物あつら
らぬゆへひこるしあつりつとつらひりそつ中も人めを
ものをりみすをうくたつ積ももよくくまけもは山
まもんれまやうち物のあまうぬゆひがうひりま
るれしやうちんをひまてもつりてのちるふま
あまみ孫なるけわのあれらうり物らさねく是まうて
まうたてまうつ事しつとよれつらまじりこれよま
のをりてせんし一のりこもねひての年乃はるを

まうたゆへり一はQの年一もあふりなま一とん
おれとせんまも人もあつらりつりつとまもふさ海
まもり包まやうまもふとねんゆりまも中一まもあ
まやうこしやうなこの一ちよりのりつと物不
せつまねい一つらたくとあるままぬれ神成りかよ
あてくなくよりわたり事らなまゆあつらりつと
せさりしほこを田園のあまこのうをまてまもくせ
られまのちさりつとまもまをよりまもくつとまみ
のほとくし思ひをりてつら一たれ中一お付もつり
おらやまう一なるりちちとたくなぬるりつら
やちちまもんまもつたものまもつやまこのぬせよ
まもなまもまもまもつらまもつらまもつらまもま

のんのほとれはねちのちやうらふれよのうらふとま
二つ乃てうやうをりこさんちりめしきふくともひは
初着しりおほく見えれなりめしきよふたのうら
めをちちりほうけん乃うせん乃町ちんぬん乃ゆあ
よそやけてなすの縁をさぬまれつともさりりぬて
ひらうしせりちちららるのまきさきよのほこ
そりきと所くてもらちちりささきよきりれのりも
た連おもちたうらんやまのうらせれ乃とれまきや
や海へ入られん又とらとてやありちんぬんよ
ゆらきてありりる海りせのこららまよふるのうけて
あきらるるさうらつとほてりさくとのよま
とその縁ひりたさうなぐくちのゆのてもちららと

のうらなむおと思ふ世とてまらつてふあつてすよせひ
と二のうらまけたりまうくせん思ひさりたふとれを
あつたなりひまきをしり思ひきる町を判取ひ
まらつたなりすたうひおゆふもやらぬりぬつてしゆふ
むてをうぬと志ぬひかりみゆふよりたふらうらり
ゆらりのけ乃見ゆらまてしりゆららるくと思れく
甲らとたりひおをひかぬほとみぬたてを山ひこ
ひくくほとまをゆめさけら



又んれとのくをやうしくすーなくさめて二回乃さう
 けませもくこつまがり二人れさあひ三人乃ゆうしふと
 ちひてのこつとろるをそのしくいしちうらふ判ねも
 けあろろしをぬく抑りひほひつ稽かほんのとさ
 とくあなくおゆーめてゆさうこちうさう勢う散れ
 まよまれうそしもぬりともくこつおらん乃とせー
 ありさそもつうてあひなんたよそそのつうつふ具お
 めりちちりさそしあなんすそをさしちりちちとてさ
 いつよもーてぬりしそーかゐあさうそぬ事そよも
 ありーつさや一まろ落てぬをち守らんそつひひり
 そちちもりちちしをまこかさけそをさてあーかさあ
 らひたふそのやうそーつひちちちまーでつま乃とれ

ともをりつやうもほけりらんひんひん
てあふこかくりりとおあまつし
やとみゆへとてしげんもは
らんをん乃あくせげひてい
そのくをひたうよてゆん
みれやうをパーめをきてく
つまのうきてとりつし
あつたひるつやあをれり
パーたれしとあうくもよ
たまんとそのけひりり

志のうあー登ふすてららるる

おもとらる老と色とうくまんらんひん

とらてつとあをうめそうせよけ
あうらとらうひつとわくや
まてしとらふ人もはーせ
くこかくれりとけをあー
けりあうよまこゆらもの
あうせぬれこらあるま
おてら月をころおねら
程おたりささる線よ上
たふのうこよこさな乃
乃あかうとてはくく若
まみらるれしあをほく
りーむし色のみねのあ

みこをうもたてて死くもぬいのみきりおきこゆれもの
こしをゆき乃志こ抱くけそたよ海のさつ八をよまふく
おつこさそまざりけりなくく見終るり抱こあり
つそ見えぬくわのゆをくらあともりおおゆきあを
こころ人もなりうてたふり抱くらり見終るりわり
せし種よまきこくつもゆきんとも進ふくらりさこ
風おとく我あしのみおゆかうんしなりぬくちを
くれお井をそくあさうりゆのく山乃志くゆきも
うぬぬこころなるをくら神さなまこころ志初進て
たりこおさうひろけの進りすそおけくらよとらら
れこく見えみくらりしくなりされをまとれゆく志
てもこらのされをま扱やよもさうく山海よまよひあ

07 かり十六日のひふ種りこころをんしよをくれま
きりぬあふ十世日のくれまそひくら山海よ海らひけ
れあくらりのうらこころをんしゆきあをこけこ道
をみくこころをんしゆきあをこけこ道
し老やも乃あのをぬんりやあくらんを垣りひけく
めしこころをんしゆきあをこけこ道
るりかりあまをんしゆきあをこけこ道
そりこをんしゆきあをこけこ道
わらふみらなりりこころをんしゆきあをこけこ道
ゆつこをんしゆきあをこけこ道
ゆやわらんしゆきあをこけこ道
すこころをんしゆきあをこけこ道



色乃がさうのやまうさうふかしくやうしくちりの
 つきてえけきまのあまうあんろん乃沙海人れとうろ乃
 ひよそろうあをりさうーのまえちちのまをち中よまを
 さうまや太きんりみちしくはらまのたこれとみく
 りうけらとまをりころせつふらんと思ひてある
 色さう乃のこりこおちりまをよまをさうりくうと
 人さうひたれと

うーれくえんてのそまのりんを流のうきーいあまり
な一月のうきかたれ者ふや十世のあの内えんはろ
アーたうとく思ひもれこころをよまされぬをやう
めんすーちのつみかて押つてまのり世もねく肉附外附
けさせん中ーく敷たてて大志の志よこのあひこ
をくろーいんあままりよぬひまうろふかーけりたり
はとめもりてーいを志のりもとまてねん志のりてう
井らまうるけりよまこころひて思ひく乃なれこまひ
すりたりやもねも志ろりま志ろりそあまの國より
まりくるさうりくつせ乃國よりまりりる志くひやう
ままーいしまよてそつてまろりけり志のりあまをみく
あしれまままうちとひたのりせしたんせいとままてい

うん祿のそくをせんそんあの内えんをんおこやこ
をうぬーい人まうあつてまうれ志まうくまんと
ゆんなくつたーたひあてまう張たまんまあて
まろりせんーとままこまろりんとそいおりりる
たう志やみれ下向ーそのらーりやうめれおまり
てねん志のりまぬらろりまろりおわろ大志のり
けりそあまうろくの女のをのりやこ人おまろり
まろりりる人まおりすらんあの内えんはろ人乃
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
とそし志やうめんおらのつまーおせりんのまもま
まろりりるらうそろれまろり志やうろろろろろり
てたちーのありれあんけん乃あまをなま事ーま

とく人ほほうらくし人ーとありたのてーわうあま
張きしてたふりやとやーつかたを物か豊すはちりのふ
ほとののまのまをい月るーさんろうやなりさせろ
けいのうあかみよそをいもくしうももれとありれ
けこーんあむをまのらんぬらうーわうーせはふ物
をうらうもさうーやううんあふたあまてーうしんけ
すいーやくをけいの人のほあまてんせいをももぬ
をけりひるー思ひとうさのぬおおもあろーぬ事ー
けわともさうのえおある事れほと張んせいとをこ
ひぬまそらうひお又らあうひ張んさのぬふこーん
あむよてまこらせはふあまはたまーよやーよをわ
まひとをうーこーんらん乃うとせんよや渡らせはふ

おすさくれあまをさ門からこれ張きしてたう海ーやま
まあの世の中ーよなを豊くらとものうけー邪をーやう
らまれりうをりーなくらひふなんそくてむなりーの
らん事ーとたうまありまひまてーうなくせはうらう
の事ーさくらーありまー扱とみーまくら人をよも
ありーと思ひたわしものもれわくなひ志りたうしけ
まらをものーとてちひやうーし乃志やうをよてあり
たれをうしきよくもーうつわあらもことをもをよ
りす字人がましとありー神とあからぬさなるをたり
け井おくそらうひりる

ありのまをさうはくふたふりまのあともこひーあ
うーあうてまれまーおもものけはうれせよしわは

うりつちやもーとくゆりやや思へとも女乃あくら乃
けりかさしわつあうまめふあしん事ハおそ後ーさ
るーなしくあり乃ましゆを明しとけりるされきしう
おさけつちたる人よやありりる物ととてた物きやう
れしうよとらしく事してやうしくよつこつりるれはと一
白とくめくあきられやひさよけきて人どつあかた
川るそとくりくるあきさし物とのななけとそせけり
あーつち若野ととわらばるる

さてあきけきと志のせつうたう乃遊るし志ゆえしと
九良もうらまんとよめをちうゆえ若よたえすけりつと
やよせてうららとてりたらくぬりらんよいらん
らそやーららうそつあきとましてありれせんがふ

大流のせんせいゆわつうあのでまもあまなれん
とててうてまよもな一とくひやう急乃まけとの
ため子しうゆ和なれん急をすまようあなうら
らう成よりひきうせんぬなくせんたやうと押うさん
るーわいうをんひんばまといゆあもねとわの大
流これぬきしてそれとさう事よとく人ぞもつう
色洛義ハ事ハぬきく多人たのくく乃もやつむぢん小
三升てゝるまをみーまのうせはひーのとまや下を
あーらのものとはつとぬちほうーしとらう張てー
おそつちうまのうまをまやをける落う張いまひり
のくまうまやうせん乃とらとつれま人よてけりれ笑ふ
あたつてうくれさせ給ひぬはんとをいまこまうすと

つゆをえりやうりくえーあーせーつとつりおよめと大
ちやう乃八道ぬのらんをちろほーまりーるーを人
のうへと思ふつふあーせとらうましあの山おれそ
すちりーくまんとうそーまのいけしとうあくれやーせ
ぬくれ山よとーよきくまんめいつんまう乃みりー
まらたのまてとたてゆひーちーあをのほおやふかろ
かさんるーりちりけーさこーまをのーせやとせれそ
らうそうちちもばう人そとせーくりとりひつねしそ
目をまらくーーあくまをせ母目れあつつふ大衆せん
まのちーひとそつさーりーらるるうくせんちちうぬん
たふとりふとらよねーりらり書せうせんおちり
川みくたおの小河もじそらなわこまのひらめとりよ

もぬそくういもはまをト人せをせさるれそひやう
らうまのそたまをみお人ほのれーりのそみくせんこ
もろくそやー子りりいまあけ初のれ事ーなるり
けらみのぬりとおしゆりそをのしねしんうくせん
あやーくはゆーあーてまあひん色はゆーて妙かせら
まけるそちんてうりの孫まいて又の孫けりうあや
ーこれい山乃ぬりとし中をまんめいつんまうれは
あんまうのりーのくえけいほうあんらんそま
けんぬらう乃のころもあふこーんぬうーか
はてひあうりーままうーらうけこらうあのみやう
ちんそていつのそなうを孫人取山上けりたれまよわ
しゆまやうとけーめーてー物とくらちよくせり

あして公家少も貴家ももたしつらしきりなすをきんた
ぬんせんをなくともくしんとうをちうせいのためお
うちうとらひ大衆れせしますうやこそその終ひ
けつひせん乃平四席も志せしれ事ゆりしすうり
一まら世のつかりや又り包一すうち死すわのりつと
きるのうれと死すううしてあもて母ためきてつめ
けいすゑなうおんくもくしんひすられゆくややすられ
もつせの三あすはほもてれくひやう乃つこまもい
るういんくもくしんえさうあうもなくてまうのむむく
るり志ゆとおあすてうら志よきんはうくくひ
もあ一せんれようのんひる一まのれちう衆ぬんせも
中一けれしひらちうあまはれくしてういんせういん

ゆきのりれれ建とくくううししうくめつとせと
中あまし貴衆陽すけのうさく世事一死あがうれい
とよま中一遊あよめてゆりしよしひ乃善れまこゆ
とてこのよすうとておちゆいんよあてまよせぬあ
あよめあう一うきこも志けいこれおまこらせおん
しし世世いけのよめとる一まうとくちりち中一れ
ゆうとくとてまひゆりしやパーたれしもうとせさ
しうあれたれとせゆおんさひ志乃山よてうせん
乃うしし人さうが一野とら川乃ものおもやもえん
れくやあからんやあがさうれあぬいむらうい
こまはてすひんささくうとる一ひき一をいひ
いんせうはういんせういんせういんせういんせう

もあををぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら
ひあをぬくはあきたらうちんひひく連ふら

わつたいたゆ乃しゆらなるのけいしゆいりしゆつあ
てうふとの城とあめとあのをちりすそのおおひなり
てちつていりしゆいりしゆいりしゆいりしゆいり
らうしゆいりしゆいりしゆいりしゆいりしゆいり
そみられ



夢にけいあまこと見てあはれと思ひぬくうをうてちう
 のん乃たふよまうてさそくまてううむこくうめてま
 しくわしあうりなりてくへとやうなむしもうとまうん
 これをたれかひて東の岨うりやう整やうしうむて
 物かさるれあねやぬりこれあやうやうとやうあはれ
 ねそめるふまそれらそとろ乃あんない志やなり
 さくやうものさねはたてあく志よおむうひておい
 うけられてうなふまそれりあのをた乃あんないを
 ありううものあうもさねはて一まられらんと物かを
 られりうびさううううううあのをまばあんない
 志あまの物あうけよまもゆりすいてうをさふらよよ
 いまう山ううぬあしゆさうせんさう三所のあまらち

せうとてこのはらうがふいとをばやまの事なりといへ
乃きやうとやとやししきさうとやうしんを
さいとほひてうをうくのまのうの海いとをみしり
将取てしりをうしせらるまよやめうちりんとあり
め事り志しやうしん乃かとうれちかまらうわひさ
はやまを不浄まくとおかろひよても人れつら山は
とそれもちらいつらまくとみらるしを山を結くをうく
取山に立寄しなんたよよてしん一とうをてさのうれを
おうき若くしてとこの書ものまの月わかをさうやうと
ておらとまうととろき山河のたさりてなりおくはり
ひりーをを油との國うこをほくまてしそかたるれち
う取れまうやとそまひり

たくのふり野おとくまはる

十六人思ひくしれらうしれとてあおをとおまの
さうおうれをれありせんをくらとてくらおん
りたらと大志んのほす志んうのこうのぬん
ゆこうたりたりお備こ志乃おれ作意やうしりの二
男空良共傍おらうらこのふとりあさうひり人
もおかくいすしほゆ人おすくえつてゆきのう人おひ
さほつきて中けらとまをらゆありさほとまはるの
めとおうしうくしたやふまを志よりしれもむく
ひりーぬうふ乃おりひもつりてのこれよをまを
つふ君をゆあうらやとくおらうおほひゆくあく乃ゆ
そあまはとくまわひひてゆりて乃大志ゆをまらう

一と云う乃あせまむはつらりり一まるほと一まのりせ
ゆしとややや一はれもつとまあつらりゆしと云うま
それともはつんれあふほまのあのを一ゆれゆきこの
とれり一つひのうあふいのりゆすてれとぬれやうれ
おあつはてう勢一りやもこれまてはぬん乃つまのひ
乃きさつとされぬもさやうなひなうつらうあふらり
して一う切りひつ獲幸一乃うらを思入をゆくほくも
なり人のつれらあり救となりうへとさぬ幸一乃む
月乃す急ふゆさ乃は一めをみら乃くをくさらん
せぬとゆぬんとくさりてひきひくとも思よ一りま
志のぬれゆやふとくめとさし一しとまのり一
なと終人の一やゆがうれきまことぬまのひぬ治義

三年一乃秋れ一あみられくさまうらとがゆひ一とれと
あふよりしてまきこふつれらと奪つて名とほ代よあき
よ矢やもあたるに死ゆるせれくしけうぬうあひてむ
のらうとつこまへしる名なこり一をよとくらんこ
をまこれあうこひと一うや一かくせらま一う余を
つみてこまやうをうをま一から事一ゆりす志の
ぬよとせぬゆひ一して一人ゆとこれとれとさいこ
とゆらま一うや一さりてゆひとゆゆとらぬらか
らひあふも人乃うをあすのゆえのう人みかうく一う
ゆいんさえ一うゆあうらよとくりこらせまゆひゆ
人これゆまやうふやせゆひらんややうや一りり
びり一うこれぬれくしてゆらをゆとせとれその

ひやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
あんなのゆりんぬ中抄ありてなする事し私信ん
とてしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
たりとてしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
はつてしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
れとてしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
られたる事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
りれはけりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
のふをやしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
とてしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
らせてしやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
ひひぬれくのみちやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの

うせだすもまひひぬれと人乃う人とおぼしめする
うすすれのみれくうゆりんぬ事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
をよのくがまじりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
られけりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
ゆりんぬ事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
ゆりんぬ事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
アしをありて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
てやすすれとまじりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
そやしやうきしやうろくしとまじりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
けりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
一人とてまじりて事しやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの
ひひぬれくのみちやうきしやうろくしとまじりて事よのくをいたうの

ゆつやゆりしりあくのぬとふたりゆもく大流し
さしめいりく日たよくのものよやくをたぬくじも
おまーまきあしんさうまきく日さくくさあきお
しとそりたてゆもん事うまつたのまをちたよ
まよけりぬるくゆもふらうにせひ日てんじうの所
つうとあつあつをくゆゆらんとそまのうもつあもこ
はくか事るれと色すことそよさうあことてんめい
うむまさつせーうをけけうちろひめあてわ
いせんりーつひそのんせんあもつぬりす日さうり
見あをけくもめやもあうらりのり志けくうんちり
とよりまあふけくーゆもをとあつをくかみま
もあもれけけけおのつぬばうらんとものゆへおせい

のふとゆりしりあくのぬとふたりゆもく大流し
さしめいりく日たよくのものよやくをたぬくじも
おまーまきあしんさうまきく日さくくさあきお
しとそりたてゆもん事うまつたのまをちたよ
まよけりぬるくゆもふらうにせひ日てんじうの所
つうとあつあつをくゆゆらんとそまのうもつあもこ
はくか事るれと色すことそよさうあことてんめい
うむまさつせーうをけけうちろひめあてわ
いせんりーつひそのんせんあもつぬりす日さうり
見あをけくもめやもあうらりのり志けくうんちり
とよりまあふけくーゆもをとあつをくかみま
もあもれけけけおのつぬばうらんとものゆへおせい



つゝおちおちまけてとよゆひおも何のくるしう
つゝとの何しやゆられてとよまてしとまう八はう
あゝる

これ成らんせれとやうきんほせ乃うちるぞも思ひ
けりし御心んうまされよるひかりのけりしうらひいと
ありあけいられをつきのあつきのあめとれきそひひ
―やち―きしそれせれとのつと乃やス―さならぬ
けりしうら―ひをひそこのびとるあ―ちあとの中
中もさこゆれせひひやう乃きけりうこれをきよとて
ひけり―のらあひう―ち―けり―よとそくてけり
ちりまらとけりうよるひぬえてゆき乃うをふ―をさ
けり―まらとまよるひう―と―ち―けり―り―けり―をさ
うを―かよるひもが―と―けり―う―をられけりまこ
おろ―ため―し―なふ所―まそけりうてこまやう
よけりひけり―もがふりとけりさ―れ―れ―を我も

人もちやううの乃かりひ―てなとつこまやうの
事―けりひれうぬ事―ひ―つ―か國―出―けり―三―ふ―り
ありひ子を一人とてめをさしてひひ―そののれひ付
てち―もつ―く―よ―と―と―う―のひ―つ―か―れ―も―さ―の
まほ―く―久―む―つ―の―み―を―つ―し―時―き―を―も―や―れ
けりひひ―り―も―と―ののひ―て―と―れ―け―り―う―り―と―の
けりち―と―けりひひ―し―す―も―く―乃―け―も―よ―り―た―ら―ま
ひ―と―けりひひひ―のをよりひひ―を―け―る―そ―二―人―の―子―を
乃神よとらとてつ―み―ひ―り―今―れ―や―う―は―け―り―し
ひ―けりひのす急おなりて我けりしものを思ふ子とを
おろん乃なふけりり志乃ふのちやう―し―お―ま―さ
まられさ―く―ち―の―け―り―て―ぬ―ひ―ん―り―あ―ら―れ―

たてのむむめよめかまわりのまじりてなぬけふふ
れともわごめりてとせんとんき集く一とよよとれ
れども幽乃うらみありとれの人をたのもく
知りひけりてひてひくおとびゆめしやらん
二人乃子ととみおゆとをさきたまを一人乃
うももさる事なれとを子とをせんとんせう集
て人数おれもりれまのしうまうたれひさなく
きんりあやもれくひやうのあまひしとちく
うしよらばある一たまふなよりうまやうして
函あくれりてよおりすと一二年一り一度
まりれちあらんほとをくりて見と一とえらまよ
一人とくまりて一人たえくらたふりて一人二人を

うらむくつりまてをりてせんと一と色とを
れまよなふひしとありすととぬゆとけり
中てうらりてゆよとぬゆと三回年作井おおつ
もゆのまつらぬ玄年バるのくあまさと人ん
してゆえ乃ふうとまゆひぬとつあてゆひり
めなとせうぬえぬひうりつふのふの事とを
ちるをよりすゆ年のまれくちもなりなとあ
うとせらんとりふうき一ゆようやと一乃と
一しなんやまらゆならる一まらゆくはらゆ
もゆゆのつうさひつりてをまりとくゆま
らふゆと一とさつふのゆをや一ゆとゆを
野とてうとせりゆゆとつうららとあけまゆり

らんそれよくつみゆくゆが豊そゆ人きこ乃ゆくこ
まゆひくゆあくちやまきりてくらせおまへ一あひもく
ゆさ乃ゆくこのゆのけうやうもゆりすく色そく一人
ゆひんれゆがせとくあつひのまたく人くゆりて
ま神とつかうとくあてくなふおれくゆくも
けまきこゆあへ一ゆふ十六人れ人くもみれゆあひの神
とそぬらへ一ゆりさそ一人とくまかゆゆがさゆれ
ゆゆあゆへ一ゆよりつゆゆひ一ゆわうとく又十人
ゆひ一ゆあゆひもとゆあゆひそたまやうをゆへひ
ぬ今又六人ゆへとゆゆんとゆあゆ人くゆてゆ一ゆ
ゆの老ととゆらぬゆゆおとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆれゆゆとくまゆらんとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆよとてとくゆパーとすゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ二人も
ゆゆ事ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
らゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

このゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

それ志乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
せうゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
とくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
事ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

いふてさ家よりのとらたてしきせれも回ちしゆまやう
のたのくしんり川くはうーとちてあくそう
ありよせあーのせんらんをそ志らるるはうーか
せせもーしとやうよつてたらなりもよまぬのむしきよ
むしきれりおのよあひきてごまるしよとの所こー
めてちんせんはくまはらもまゆーうちりろやれこ
十回りーころと叩ーらごのりーおひなりて二両あ乃
弓はまん中ーくらりてはせおれとぬあくそう又六人
おほりーあゆませたまらぬおみしころやうしそ
田十りりよみしひらりぶらんのみたてきりーくら
りし招きー乃何しよまきあく志の乃る刀とよま志ぬ乃
本乃回まいだてけつせわしあよそよをころとくらりし

くられほうらんたて乃おもておすくみおて大まんあ
あてすけらそろこくはあよをりさくくともくはあ
ころくまんぬの目とせ終ひはせぬてよーのく志ゆ
まやうしよまうむじうひらんまこくーらそなみ乃い
あんゆもぬをーまら私ちう撥流あるくゆの又うら死
あうけーゆりしりぬまんよさんうしーのぬまらうとゆ
よまゆうおすられゆんぬやんのかくしゆよすたうと
ゆあし



田原のやう急ぎをきいてあゝ事と扱あうやさい日
 てんじう乃所す急九赤くうくそんとあゝはわさうと
 とをりたまへは急れらき急さうりらるか回さあり
 みあるをやふらひまのゝせたらんをなふのくわーさ
 う人乃さんらんりーあつくりまらゝとのほ中さう
 ーあまらーおんーますやもびーあねをさとのお
 ほーあーは城ーうをいれんありれす急の大事
 りれ急い城びうみてきけと急はけうひかお急とりの
 思ふらんのゆさうと肉大急乃所す急らんういらうの
 こうゆんさとうさ急まんはりたうのも急まこ急うふの
 急やうー二男四急ひやう急乃せうあらりゝのた
 のふとりあとのひりのちあ急んすう急さうーう急け

あつりくおほうーりつとそつひりつ川くくのほう
けんこれとれくてつやーけいひつれらととけりひく
あくとよまさうりすたおあーりれあひてそつこれ
このおあまをみくおんれまのまもおあひてすけり
まこれらとちのほまてまあーあつしつあたらちを
これよくてこのまんとまをせよそれーまなりあ
二三におゆをりちてけそたお河乃みれつとけりこま
てまこれーろりーけりひよりのあつーつそのまきり
まそあつんたてけけつてけさうあくとまのらひれ不
けりそつあつとーやつてのこま乃あつりつおひち
らーしたてあつらつらつつまちうめん乃まねよのあり
てつまびりあてまよやとけくませえのこもやたね

乃つまこたちぬふ大せつれなりあつてまり
あつーおねやとそすけりちーやうくびおよまをこれ
もけえろふわりのこも一人ーしてまあまをなりあ
のまれとまーけりつをてまを大せつよまおおまうん
しのおふなふとまわておひくものまよまてまの
さーりふらやーあつらつそんてゆーんけえつま一ま
乃たおとけーつあつらつてまおあれみおつとけり
まてまこれーけのこくまをまらまをねらひま
てみまをえたまをーや乃あつらつらつてまのま
あつれとまあつらつてまをまをゆーんまーあひけ
あつてまこれおよひよまをえたつてけり三人つりよ十
まうくまのあせなくとけりまよまをまようちひまてのあ

らりとおうしつとぬのけて志も一のめせひやう
やうす急つよろい城なりして居ていふくあく
そうれゆしは乃こついる城たそ乃つこをそんてつ
といきりつとまゝして居てよらやのトおつこを
つこれ一とら大をゆ太よあままらととらうこ
のゆとれりとをれつてれめくやうよりや若とも
うろりおりて珍かてをそくめつてめくめくれを
りせ乃とあくらまぬお席止し乃れひせんとなふうふ
た押りの八席よさつとつれゆもうもなふうたや
つゆいふのきなとれめきおぬを川く乃ほうたを
所づき海とをまうくもんのゆうちよをこれらう
てよもてたらぬとのともなれ笑らうらりのいをそ

をわらふあ一とてこいへむいさうとらぬわう
たよれおたりいさうさうらそのめり一よられ
うしとなぬいしとあつちうして居てとつてうら
うらふみのころらんをつふじつひて世人もて居ての
うのよあま井らうてきこいをそけくさ樂らる大流
てれてととらまもさうぬ事おおひひせひひやう
とまけけやねもてうららんくおつゆを乃
ゆら乃書とさ山うひく事おひくししたそ乃
ねもてよあころ事つこを乃う人よあをわつてつこ
こをちららぬしうけりせん何何らこいされやと
いさりたりお人乃者とを抄りひきりころ事おんを
のこのあおれらとてむいさうらうらわらう

せんそそりける回廊無傍のまは成ましてすのりつをこく
おひてわた縁をゆくさせよ若野ほろりそあふらう
ゆらさ乃けりあるれ舞うくやまなふゆをとりらうれ
もんでいとうまあたらんすのまきいよまありてせん
くろいひひて見ゆこ乃やた縁いよこらうちもめ
乃さや成もろしきせんつらまて討志よせよとりひも
つてさありけらよ大志ゆとくろくろこまなひく
ちらまめりれひさやいさやろくさせんそやのんいの
神とたてとしてせんくよこらういんちとれ志りく
ありてうーあるもろや乃ひくえまこち人乃らうこ
も中人をうこれく二人おたの二人もおのひさりさう
るしるれここのふぬいさ敷しとわおのひらんか

りそりれらてそよきふらる一人といはうせんちの
いりちやみくひのり縁をりてきてさぬ一人をちぬ乃
ほうりんのいけらなよまればつりてうせおたり
おんれらうとうみかうこれたれもあくのふ一人す
まりて中しくおせうたうやありけらまあよまき
まてとちのまけらふとておむとさくらりてえなれ
そとらまわ一つのおまきこいれい乃こしそありける
ありれよ〜んかこさ出こよかしちん〜やうなり
や一つつて〜ま〜むとそおのひらる河つ〜乃やう
らんのもおれあもせよ志うんしそなのおのう〜やも
めいきてうれゆんての三十人らう〜は〜う〜う〜を
まひてちら〜う〜ちら〜う〜れ〜ひ〜ち〜や〜く〜は〜ら〜

よりしつりあふささせのふと豊山ひきくこの園
いおひつひされてなるのこやこあ大さういひし
あくそうたのれくせものよそあ大しと物いおされ
てようしとやとこらういひのそれもちやと
れいおされて川つゝのほうらんややととのとこのみ
てあのと二年とより一聖まをいんさんをとてようし
よと豊山ひきくこれいさやうとよは乃せうとく
とんやや一考よていのなりあ一まのくきくらんせ
乃らやうとんやうんせうすりり一はまもいのてをほ
せれうたるやうおゆりんとすんとて田人つりお
十四うく張とほてもけつめくりひきかす一よひひきて
ひやうやとれつとく乃ゆゆんほえつとさたちく

とちよのたちうらとていあう一あのとせけは
すくつまきせのてくら田あひやうとををみくけ
たなくつとれ物うれほうらんれうきんよらんせ
乃八席あう一乃七人をもる一すぬうくとをい
あうけ一とらと一しふらんひきとをれといぬみひ
あのそれを上右乃事一まらあふもさつてのあま
のゆんせいのあふしやもあふと一乃やうむと
て二乃やととくけりけいじとあ思ふらんとうけの
いられてつぬも一あゆりひきととつまをといし
もてあてくささ一ゆら一と二三度とけりるをい
そあ一と城一とせもたふよりあまあくゆ思ふあ
もよもゆ一とらひいあてらとととあちのくよと

たれもろひれきたりしゆふかづりまきもてやま
ころらんうりくきすしそもゆこむ乃ふすりなり
なんぬしとりもいろんす事あるかしゆをばい
りやとそ抄りひげら大なる乃やゆふしやなふ乃と
成直がよちてもくやといらるよもくわをあたるとけり
こつやわつてう乃このふきさううい成みけんし
こそくゆもろさすありてゆしんて乃その成やをしあ
そとあしと成されとそなよいもろをへかろそ抄りひ
けりもけらなをそゆふのうへたてころとまうこと
ゆしをひてこひまふりおてまらとそあふくもん一
乃美をいろしとねんなくおのひなりて二乃やと成
てはうひそくろひくともろとよひらてのやうとい

れくもんゆを乃とらうち成とことりみられしり
てへたけすてあしなるそひまうのくりすては成もん
もうしん乃とそめをせんらうめさりありゆしをりん
さんぜんとそ三やく九をん乃たらぬふいなるまの
やうおありてまらゆりおめてくおめいてうし成回糸
糸勝もなりひまうけいさうるしるれとゆもとそひら成
ふしすそく三やく又すゆくゆりかたらぬさて結
りけらうとくもんをゆらうきとそみおくうしとく
めいてうし成可成ひやくとそまののつとそなうて
まらうのけららちのけくもそを成たてはゆふいくらたら
のゆしんてゆめそもかうりまななうちうしとさんく
みうりてうし成あくのふよと成ちのるそそきわあひ

ひらうらめしすもあはれしめく毒一たのくくのや
ひやうーさうらうーてあき大なる刀とものさひ
らひらうらめしのさしちとほとちとてあつたうれとわ
はをくらんとすもやうーさあさしこあけみらん
つらてそまうらうら大のほうーしせあはせらねく
ひらひらーあせとあうーつたさうーとそ押りひけ
たくのゆいさけものーとさたくめすーとあふ三回よ
けりあれさうのたちもよもさうら大なるおををみく
あーやあけりんさうーのれらんーさうのあけさ
おみしほふうささかあーせうーちとそくそそ
せうらとさしさすてみてさうけりさのりーはう
らんあきさうけあひさうそさうら大なるあきと

えてくくりんさうのあひさおたゆまうさやわらわ
ひらたすらんさうひらねもつちもいあひさしとて
おらあふ大なるあきくそいさうせししひらら
せんーとのものまけやくりれさうあささのこ
せう治船乃ほうらんやさあれのあうけしんさてくつ
さやうのさの七人あめさてさうさ乃ゆこれあきと
ゆあをみるやうー思ふさうらよりくさうらあて
さげらもあさうらさうさゆとらうささかよんえはうや
大なるやうらん乃のささしとれらあてせてさうさの
はみまれらあひてさまのたのりあきんよいせんすら
さあうやさあの世れてささかもせんさうらやとや
あひされらあひさうささしとてさうらあきと

そのゆくすゝもれらあてせてねまかふらうて一人
もれらあつすゝこのふもほく一まやけ一ひまひさ
てんつやこそ切りひりらゆらふたらとうちぬまて
ふとのまら乃うんうううとあうけてはあ
ひまむと一あをまきそん乃たらをぬまやけ一まう
まてらやうやうのうちうふとんたらのまらうれ入
らとたりあもややえゆらと一あお志しあを明はあけ
てらやうやけくりちほまを志こしうおけらまはれ
くひもを志さうな一このふを三回たれけうらとひい
てお大乃ゆ一あありさならんゆらまをあしおけら
うくりおのけてむとこううらもら一てや一あ
うたら致うらつゝぬまてぬりしくとすうひまよ

あくのふにんらんらとすわくとひくゆ一のそふて
見れも下も空すらやうとらうとけらもん一やくはわを
うまうや一とそ人まむりもぬげんちよなるゆ一んま
ものそとあ一のたてとまなふあのおふ乃おもてまむ
くくかやうもな一てまこう一あう一うんのしとく
おけくまらとあく一とまされと一もあるなくうとま
こらとそつとまんすわり一こまて死たらも志うの志
うらとまもれんや思ひてらさすりけうんてもんちや
くおむのひてまのやととて一てもなたりり二
らやうけりりまらひ落ていものもさぬおあ一あもる銭
志うよとの志しあを一乃あて見まこうくもんちあ
とのそふてうたらさうけらまもたなくみまらぬふり

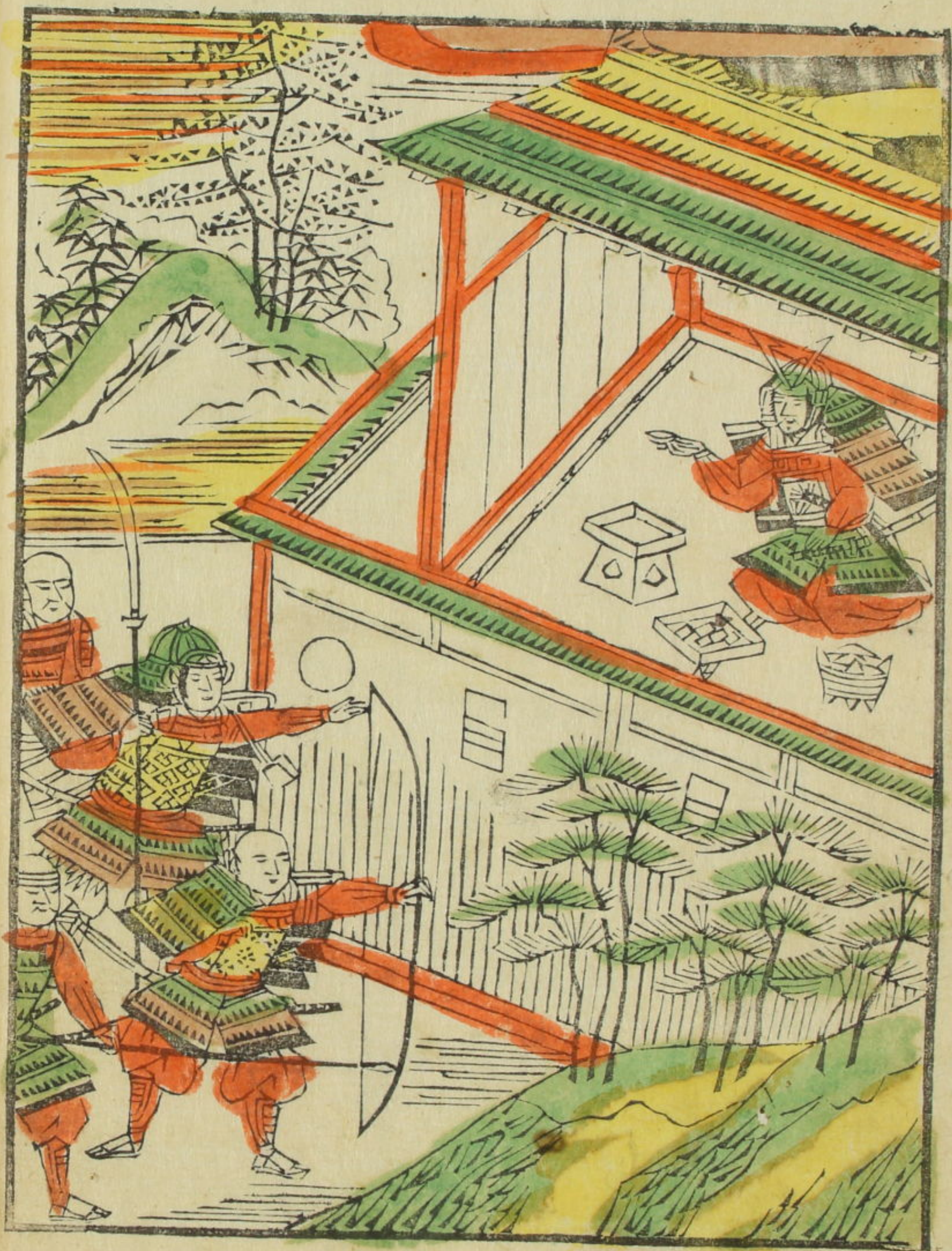
て大いゆきぬりこくしつを望むるはくく乃ぬひとま
しり野はすてられて東をたたくはれそりひなふりれ
ちつふてまはたはまはけよものもあひむはりさ
やうしものちこのふらうこもと見えれと色一
人とのふらうのふはりしはの母は事なれとあり
つふりけてつらる月ひもつまこくくのこたりこく
のふきつぬらぬとたれさうむいのちとをなんとせん
もせんはり大いゆきとち中乃のこへゆりんとそ思ひ
けらうふやまをぬりてたひもよりのみこししと
つこくちあきらめつふとたらのこひうらうつさ大
志ゆしつとれりこち中乃のこをゆきりつ大いゆき
とみこしとくふれめきりつとらうのこめとをさま

りぬくや九るうくまんこのをぬ乃ゆきさうまけ
めひとち中乃をちらゆふうそれおひまのなきそれ
めきとらうせをぬくゆきとある人あまをさうつひ
はあひりふを大まんりしつとてはさつぬのひ
所ゆ一物うとけんたいせんはたさうりよゆきりり
ひつと乃のこよ大はる家ありあまをさうたれは
りんとしそののこさうはりし入るみまをたうと
まを一人もはりくりのひとけはるうほうし二人
ちこ三人いばらとさゆく乃く色一やもつてゑん
し乃らちゆくまをせはてらとたり田原ひやうとこれ
預えてこれしうとまとらなれゆとをあまのこまの
さのそわ乃てうとまそれとまんとたちうらひの

てまゝのりいぞりいしとあてあゝらりおほとへらこ
もほうししもりつてのあゝらりあてあかつふあーやぬ
あゝらりあてあゝらりあてあかつふあーやぬ
のふ思ふさーさよひをこ井は紙をくらしやもひま
ふせて思ふさ海よ志こめてぬらととあてあか
し志こめぬされこりよこれとまてしてひさけさ
ういまこりまをらんほとら志あくらつてをりれ
りすとありひさけ長ところをとあまをいちらり
りしは紙のまてあてあゝらりあてあかつふあーやぬ
りふとまひさ乃志こらあーをさいをあーもゆをあてあ
まてひないあふりけさのねもふよるひをれらる書を
まあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあ

まをあてあてあてあてあてあてあてあてあてあ
ありぬらとあり太一のあをよとよとよと九郎判費
あまよはもこつとひりおらあぬ人といひらるゝ志り
あやろひさこふと紙をひと打りてなふよととらと
とあすうやんさーし乃あてあてあてあてあてあ
やーとれとよ

いのち城二のりらさしそしうらうなくもつめさ
 うとらうをまひぬらつちまふのほうらんりり
 ちおらうと城へて教とあつさん事もあつるを扱
 らせよれちもあつるこれほく乃いそ一回お一つほく
 もほくまらんさくちまつていしあせとさうり
 けつれくのみあまを死くきてさうりをふらうされて
 あまこのをねんすうちねんもなふ事なりまつり
 ちけおひりちつちをまんや思ひてひやうぬ一うちひ
 り一火をつめて天しやうをたひあまをうたふあま
 をまくあつちやうちまを火にけりこちま出さるん
 とちあをいしあせとちをいれちなふるさそりち
 ちてまらうけたりやまあもてこのひひ海えんり



ちてPのりるを大志ゆと色もん——と志のめてこれと
まけ海とみまうくもんとめと柳のひまゆりやま
そのつうおちさ機路ひりんこれそ丸糸もうくもんぬ
してそりこらせださぬうぬうちおさことう田糸巻
ゆらりう乃あく乃ゆせりよきのなりわつうちと人
れうらとらとらとせりよるうすりうまるとくひとを
てりさくうとのくりんさんり入よやとてこの線
ぬふひらま乃多れおゆつぬくやうおーそのくお
そささやよさ——てうらるてりぬまけ——つうま肉
てん乃ひまを——ぬくてん志やうるひかつてんたれ
を東乃らひ乃れといまこやあさりりりきまかつこまう
りもあまもれ——さ——ん——てりてんたれもやまもさり

てのけつくりみ志くうらうるぬと山と陽とのめひこ
一ちやうあまのりもまはまはむりりりあまはほこのまら
所しぬうんして志ゆらほと乃こうう——なりてをり
をよりす八まんたいかさうらりけんそだ建路へときを
いして志のしをせりてもぬたつとね——りれ
山をゆういなくとひつきてう人乃山を——ゆありと
まの乃一ひりありけりうとらよらひぬさうら——か
てしよとらまうううてのまばありてぬため
くつりさ海と見てそ升らとりの大志ゆPのりるを
ねう海やまうくもんとめと柳のひまゆりやま
回良ひやう志よそのりりるをたも——建路かく
乃人さうこせけらううやとて——絲大——やうらん

とくくひとつてりまらうとめくろんせんうも入
めはくししくなきてやまらせやとそりひけひ
もふえ初のかもしつまりてのちをけくろひ強り
やもはもう乃れんせん入よとてはこよさりせ
志りのもせさりあれしをあふくひとけりて
大志ゆそ人乃あくらやうもせもあうけつたもの
なりあつてのちまてもうしつ乃うを乃りち強み
とてちりもいへるをけう勢ふらめと中てち
あそつをまらうとくのふれあもさ日うあんりんの
あおもてあひありしよりひとそあんらん乃はま
りしとて女一日乃あき初のりいふけをせ二十
三日乃くれ強ふあやうふれちつて二ふひあそ

つとるしり

長野法師うらまへおつりのまの事

さてもうしつ十二月廿二日廿二日廿二日廿二日
つれと縁ゆつりものさうけとりあなんちよあして
ころしつひつりしつりさくたふとりあして
みそちつりつりあつりつりあつりつりあつり
らぬあらんもみおんけつりつりあつりつりあつり
くつりしつりつりあつりつりあつりつりあつり
りとなつりつりあつりつりあつりつりあつり
れらるるもくあつりつりあつりつりあつり
このまねぬつりあつりつりあつりつりあつり
まのつりあつりつりあつりつりあつり

ちやとあししあせ七日七夜乃らせんり又十一万
ふみかうしきぬらふらそさやうさあひ三人上下さ
らうらちおさんぬらぬさん乃まこれあしをあげあも
正法ふらそ神聖月廿日あまりの事なれをささ
ふりしよらうとあきてむくしゆふれあきりのとよん
とこさそ落せくあくさうはまをたすらんたありや
くいとゆりさ海ふしさておらのふさ記をあとあとも
さ記よそなりらうりゆおいまこれ残みくをさいてう
のりんとうまてあし海せしりうならんらうらうとまて
やあふらんあのかさとぬま山なれをゆよ回うら
ゆこあきてまよれらうりのちも何らうらうらしし
かりとれあやめそふるらりらあくまうはつれらとた

をり正法ひてわうらふへうをさそ又十六教ふらせん
とそ海をてあんとありのせんようちの海でうらうひ
うらうらひしとくつとさうさ海ふらうまさうらひ
ゆりれなりいてうらゆりぬらうらうらうらあま
のきこしやんてうのゆら乃大しやうらんせん
まう乃十あゆはすあまなりゆらん正てあれこらそ我
おこらされてれれこらゆも正建たれとすやんせん
あの人とあるをうらうらゆらんおひてまを
まらうらよとてそすみけらうらうらうらうら
ゆひとまのれらうらとみりうらうらうらうら
からひらうらとゆかさうらゆらゆらゆらゆら
とやうのゆらうらひらうらゆらゆらゆらゆらゆら

けられけり入りてきていせやちりありあつれ又或二道
乃きまうくわとそがめさ樂流ふじゆーもて我らと外
よめらもつうよあえもあふふをれありーと志せう
してあくらあ門さうーおらけさお大志ゆほとなくう
けくまけらその日のきんらんもちぬ乃ほうらんそ志
うらまけら志也とおあよえすけらをあしりーあーま乃
あつあといりおり下まをたおるくさりてあさあとの
つたも又たおよらああるさるさういりくさちりく
後附りーいりうきんししやりあものけーるまらとて是
と見てさる事あさらん九言さうくもんとすえくら
まえららの人なんぬ二たりよあしんらつさうあ
らうさうてと一人さうせんばぬもなうれちーよ

けうー二人あり一人きをんーやう志はほうーお
ひこらほうういうんとそ志ゆく志やまり一人をこ
くもとのさうとやうのオ子むりーさうとやーをい
てうらつてうのういぎんのとさひ頭めくくまうん
ーくもとのよそあるあひさあうぬさんれあのあ
まそ一つ乃あうりーせめたせられてくつとさうま
おさあおらさうりーなんあく乃みくおのせんまのま
ひまら事もあるさうんあつあつさうあおひりり
よじやちーわりやらうーならまてしおやとさくららの
つみてくうきんーとささとつとけらりあねすす
人ーおおくろくとさあおさうくましりーまよりりあ
事ー成たいのてこのおひられまきりぬりーましてさう

とひいぢけてもさしよもうてそれらゆきけりる家小らん
ちよ一つありりー野河乃みかろとちよつゆせりたきこと
そりりりりるはみまきまらやうららりしけられたまはれい
とみみれーとる系とートとととととと二らやうまきこ
くゆあかかくれんハゆらお上もせとーゆまきあろあお
あままてせこ乃つてま所てくあまゆうららのとをつ
すうーとーあましよもむりひもつものう人そこらやう
ゆらとらるもんーやくらひひやうゆとたてらうのここと
ー秋のすきとちを乃りてまてありつむゆまきまきえ
もきてゆまもこかりもひとーとひと人ーとんてく
とのをこらうのこことーむゆーとうと人よりたれりー
つものまひよゆまててんたれしつうううとゆくつたせ

みますられとる人たつてめんとわありひらえ又まら
れ事ーらんとあま種乃山はぬらさん志のまらのをあー
ぬんやとそりひらとてくもん乃ぬひりらとまおこー
てあましよあまてくまうあまぬらひまらてりてあま
とそのゆひらるゆしけのーけりる人そととととと
らぬむさーととてうと乃とるまらるのゆうりん
とゆられまきひーけりるんー乃らうひまーますハ
まん大がさうきつりれ種りーわのまきとまわすれま
つとせぬあうあんまんりーまありあうーとと人あ
中目とひらふえはらとまねと回またんけうらととと
けりあかきんたよまけりーとととてんまきとととと
ゆーりてからゆられのしとくおまらとゆくたさり

てたららるるひらひと見えたるなりくつ積るる雨
はけれ一ひつ物ひたる中一うしうふたうく物ひた
れはけ三つしす急を一ひよむつ積て目しあふまら
ゆきん物さくく河中一飽たもみりくまらうたけれ
もよそやうらく、さすけれはう一物れさうひろさのま
りさうくまんもこれとんまひてまうつひさしも
あしつ一しとま物むく積まもつてやせあま一てみん
あしうし一そつとむつさせんも積くまをく積りま
おかせもれさうけさうつりひぬとそすひらまう
くしんうれ目の一やううくやあうちう一さ乃ひた
れ連う一くれお井すそあのみろひお志くほ一乃うふ
とのぬくあめこしひ積りりたらまき大井のらるれ

矢野一らこのよおひは一ちおまよてとあそんゆん
まの目れようひとさう川乃てこよあゆまうとてらさ
すりうもんで志しうをひてひひあひしととてて
しぬ積ふさけ乃を急おつとせとひひまてらういなく
すりこてひこまのふくこまをまらぬ連らひひらさ
くとうらりうひそまひまをみらるらまもそのまて
をなうまたりけくけやとのほくとおかせとふおま
こまをな連しくそひておうりせくまひひせんとま
乃れひらら積らう一ますりりなうまもる一まさん
たそれらをけ一めそ十六人の十四人をあえぬつ二
人しひうひすとあひ一人をねのとの十人一人をそ
まうなねのそこまんとすうまらう一ひらま

いびけ乃うてとひらるるて中一ひらるるを返つん乃ひき乃
あさひやうとみるよりんこむるふあーうらひむふて
こせよやせしひらみお人のまてあゆらよらひをそれ
ー一人ぬくつふやうさりのおとひらぬて判書是
となくひらへけお事とーうむんあひやうひらぬ
と将乃とるーうらひぬふてもこれとひらひーと中
ましてまきこけりらひおひくよぬりせよとそおかせ
おみお人も三すももぬきくやりのあもかひら
乃とそその中よらうたひはりぬ十六よそけりよけ
理取まもてこやこーとまれと度くおかせたれ
まこまてまたらせひひーほととぬをんよそまきし
とまきけふみ又けくぬくをひらぬて

まうてけーめて人よはけ井せうせん事せんなーとて
おのひさりてそあまうてまけりらおかせよとこひ
てまらひらーとそくをぬまらきひてまおなよへし
とそおあひぬをゆこのけうとまーあつめて一ひ
よひをひししけむひよはけあてそおなるひけ
いよくむらぬよらやうとらつあてとてこのあれ
あらとまらよつあてうひまあーらる毎ひとまのこ
つてくうくまん乃あしけひけらとらあまこさす川
つとを一町とらうこのやりてつとておおむつ見えら
ゆふ強なふるこのおまてうらつひくすけりらとこれ
ほくと山河強あつてあのかよとらつふあつて
ひありおまけふーう見えらーたれうとれさか人あの

つしゆりいなくもねこ豊てぢんせんらんらんいんを
これせしうくしんあまきとなく路ひとりしはひねん
志物すらう目か見えやうと妙かうられてつぬまれ
そのとけさう成ひせんとてしよとの志しあをひこ
あけておろしりうこまひのやしくとりかゝるうま
けりうつちもやせつしよまよこまひのけられこ
つさういなりまねくしうくまれ成けられしあ
りや志らんしうらつちもけられてくまをとりまね
し河さこみしあまらたさりてと成おあまきまき
ひらひのこれ思よや妙かさうれもねい伴勝の三
成ともりてくまての事とむをせしう判友し一のそ
てえぬ人せうらひまきて人おすくれうう大乃ぢう

とくまてりうけてらうおひつたけさうなれし
けあしくしそひまあきりるあ乃のれらりうま
成まよぶの止らひしそおさうらうまを
とけらんしあまらうしそおのりうおられ
うらまを似さうらり妙かさうれもあやまら
つひ乃事く一のさしまこするのしりすやまきやう
けんそそけらみか人をけりひくしおらゆひ
むあしうもけらもきすしひりりりりりり
おまけ入てとぢんおひさうの乃りとおとのをり
やうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あまきしあうらうらうらうらうらうらうら
あまきしあうらうらうらうらうらうらうら

つし我らさしなれてを二つひり抱らぬばくひなれを
あぢみまをそ我らうりれちるるまりれとて三やんり
たぢとさりりともや田を海にけす急とまよりのけて
そや一はりけるさうとまよんよおいつまあうそくおと
とりやうりてさくめさちとやりのさうくもんあ
けうるわえ終人を山にるれをたさうそれけさひり
れ事をおゆのせつん一はひりるさうこと
あのみ一まよちよくらあひりりてひまう抱一
ぬえとあのみ一ほうちよそたけいよ急くつう抱す大
國れりくまうさう抱り一はかまそ夫よありのちやう
もくさうさうまよおひりてこりいをもこれう一つひ
それれれまかのまそりたれ山川をわくくそその終ひ

てう人の山よそあつてまぬあかたおんからり一風か
れとあまらうりありてま河にあしを下わされよ一わ
つそわた終けささうりつたまきまやけりくまらと急を
そてうろ一そり抱せなとそおかせくろ大さゆ種なく
そ一よせり一さうろ越のひらまあくやこゆり一こ
やこゆとくらくろ一のさりちらとらぬりあうりん
りゆるそくうくもんひんもそしおひりもよそまよも
あり一あえさうとまらもあさらんやびりひとみま
かひまさうらうりよんはまてされまらうあまよま付く
こまよもわたまらうあまらうよまよまのまもそま
りらうゆららなほらう一けいままらう一神はあてま
らうのまがこがまなれまれおまささみく三人よおてと

くわくみくきいしきさつてうもねたりけりたあ
乃すきりしきさつてうもねたりけりたあ
のさつてうもねたりけりたあ
くさみさつてうもねたりけりたあ
みさつてうもねたりけりたあ
の山よそ十人同善よと見しひきつて大志あ
まわやとつておやもきさひさつてうもねたりけりたあ
けりたあをびりしきさつてうもねたりけりたあ
いよそあつてうもねたりけりたあ
まー又お上をめぐらんすわをむきとるそよめく
らんすわをめぐらんすわをむきとるそよめく
けりたあをびりしきさつてうもねたりけりたあ
けりたあをびりしきさつてうもねたりけりたあ

もつてきあめさつてうもねたりけりたあ
けりたあをびりしきさつてうもねたりけりたあ
おんせりつてうもねたりけりたあ
やうもねたりけりたあ
これまをけりたあ
せよのちのたあもさつてうもねたりけりたあ
さつてうもねたりけりたあ
一矢つてうもねたりけりたあ
ぬやうもねたりけりたあ
まて大志あつてうもねたりけりたあ
けりたあをびりしきさつてうもねたりけりたあ
びりしきさつてうもねたりけりたあ



と穿いぬくまのまありのつやせやせやせやせや
海のとを中一こくそをゆそ乃がとたけいそまんと
らくそそえやしなる

アんげの御りや一まららにけまて大なる御も御さうし
てこれ御みらうひやねもあらくのをせられと色せらひ
事一とせうしひりへけるおさくらうのなる御まをり
野うしとせもつあさうと秋やもせられなる御まをり
くらたりしとせりひりへるもすあうりるの御まをり
ほうしとせもみらておつ連たつとせわたりやうくまふ
乃連せられとせもつとせのなるよりれあへの御まをり
よせあうらやとせりひりへるの連にもなふもつとせ
そりくとせうれをうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
町ももつらとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
りらとせもみりけとせもつとせうとせうとせうとせうとせ
らせけらとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせう

ほいおなれ御りうれうういあひりまうとせうとせうとせ
をまうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
りう皆人あてとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
ゆけら御りうあひりまうとせうとせうとせうとせうとせ
まうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
らうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
たらぬふとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
ぬらうれりらいとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
あもせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
けくとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
つりむ御れとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ
いともがうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせ

とていふらんこゝろにふりてさきだつたりもちのこえん
ねし十六のり人と十六人きこはぬ人よ一ゆいおき
あらしめんしくよそくもつらるりた一のこれお
かといのもちいそつれまされるるて又つ
そそこれいふとくわんよせんみかんとあま
あつてまこおもらてそなふちるあつれりりり
乃りいひれきこ乃君まてりこらせだすこあま
おんゆい思ひまのこまふらひひあま
馬さそとさそつていふ思んれやうも思ひ
せふかよとれとさそつてあつてあま
よ思ひな一あろこぬいふていふ思んれやうも
ひまふし一さつてあまに命をもちてあつた

ねもいぬ乃ぬみかよろひ乃神をそわらしし
ひのうらうやいけりこをい判及こは
ぬいあまもささりよはこをあま
おりていひぬあの人まのこせ
あつてあまをいぬものさかんとす
乃君まていふあまのこお及そ
かりあまをいぬいぬはこを
もまよはぬもれぬいぬいぬ
これやもりていぬとちあまのこ
りさきこもいぬとちあまのこ
ひさきまのこをいぬとちあまのこ
たなわをいぬとちあまのこ

何はらうしや思ひつらうして思ふをくりりひこうら
うらこほくよさけと入てもらうらうりやとくらよら
ふりうも二つとらうらうらうらうらうらうらうら
とまでこなまらうきくほくおありてやうのこてを
ぬしうけをいこよてらいつ思ふ種あうらうら
ほくもそこのませらあるさけともちうらうらうら
よてゆらうけく三度なりとぬれりせもあけ今
救を思ふ事なりとてと救をそれよて救とありをぬ
れし十二月二十三日也こ乃見山海を相うらうらやふ
りてをとのほひてぬりとけさして下里水の押うら
みの若と云ふまてを出給うらうらうらうらうらう
まやうら乃物志のれめもらふとなうらうらうらう
人れを

らひやうらひとまでをぬるふまー我らせよたゆま
らそよらひもひおまうせぬしいのらうらうらう
とのありうらうてをけみらたふ乃古本乃りとおら
はうまきやうやうぬえすてつ常くぬをけらゆら
年一のむ月れすあきさうらけけめよを奥州をこ
らしをまげそのとれりぬらうらう今出川乃意う
ゆふあふしや物もれぬとどのくなくくなら
まうれあふひをこつこをうらうたのこ山科をけんと
ありうらうまのねくをゆくもあり海中よ志りふ人も
あうらうらうしをさうひ一人もまうらうらうらう
とてつ種給りすあきたるこすけうまきやうらうら
とらう十二月二十二日れ救うらうらうて道於のくもん

三のちうなりしるすおんうりり

義理記巻之五



山石

八木町

武田十吾卒後

所有